

『就実教育実践研究』第14巻 抜刷
就実教育実践研究センター 2021年3月31日 発行

中学校における「特別の教科 道徳」の教科書分析 — 「内容項目」との関連および小学校との比較検討 —

**Analysis of "Special Subject Morality" Textbooks in Junior High Schools:
Relations to "Content Items" and Comparison
with Elementary School Textbooks**

西口啓太・渡邊言美

中学校における「特別の教科 道徳」の教科書分析 —「内容項目」との関連および小学校との比較検討—

西口啓太（関西学院大学）・渡邊言美（初等教育学科）

Analysis of "Special Subject Morality" Textbooks in Junior High Schools: Relations to "Content Items" and Comparison with Elementary School Textbooks

Keita NISHIGUCHI (Kwansei Gakuin University),
Kotomi WATANABE (Department of Elementary Education)

抄録

本稿は、中学校8社の道徳教科書について（A）教材として収録されている資料の全体的傾向と特徴、（B）資料と内容項目の関連性の2つの観点で分析した。①収録資料の数、②各社に共通する資料③資料の作成者および出典、④伝記資料の4つの観点から、教科書に収録されている資料を分析し、その全体的傾向と特徴を明らかにした。小学校道徳の教科書と比べると、共通資料の割合が低くなっていること、伝記資料の占める割合が大きくなっていること、伝記資料においては、視点Aが重点的な指導の視点として設定される傾向にあることを明らかにした。

キーワード：道徳 内容項目 伝記資料 教科書 中学校

I はじめに

学習指導要領改訂で小学校と中学校の道徳が「特別の道徳」「道徳科」となったことに伴い検定教科書が発行採択され、小学校では2018年度から、中学校でも2019年度より8社の教科書が全国の小・中学校で使用されている。この中学校道徳教科書の特質については、2019年から2020年にかけて、すでに中学校道徳科の各社教科書を分析した研究がいくつか発表されている¹。しかしこれらの研究はいずれも特定の内容項目や分野に特化して分析を行ったものである。元笑予ほか（2019）は、小学校と中学校双方の道徳教科書の分析を行い、内容項目の内訳の特徴や、道徳性の観点からの検討を行っている²。ただし、各教材の作成者の特質や伝記資料の傾向については明らかにされていない。

本研究は中学校8社の道徳教科書を対象として①収録資料の数、②各社に共通する資料③資料の作成者および出典、④伝記資料の4つの観点から、教科書に収録されている資料を分析し、小学校道徳教科書の分析結果との比較を通して、その全体的傾向と特徴を明らかにすることを目的とする。なお、本稿では、資料のなかでも④伝記資料を取り上

げて分析を試みる。それは、先行研究³で指摘されているように、読み物教材として伝記資料が開発や活用される傾向にあることや、その一連の動向が、検定教科書にどのように反映されているのかを明らかにするためである。

Ⅱ 分析の方法と観点

1 分析の対象

本研究における分析対象は、学研教育みらい、学校図書、教育出版、廣済堂あかつき、東京書籍、日本教科書、日本文教出版、光村図書出版の8社から出版された教科書である。これらの教科書は、2019年度および2020年度の2年間に中学校で実際に使用されているものである。学研教育みらい、学校図書、教育出版、廣済堂あかつき、東京書籍、日本文教出版、光村図書出版の7社は小学校の教科書も出版している。一方で、日本教科書は中学校道徳の教科書だけを刊行している出版社である。

文部科学省が公表した各社の教科書の占有率は、学研教育みらいが5.7%、学校図書が2.4%、教育出版が10.1%、廣済堂あかつきが5.4%、東京書籍が34.8%、日本教科書が0.3%、日本文教出版が25.3%、光村図書出版が16.0%である⁴。最も採択されている教科書は東京書籍のものである。この傾向は、小学校の教科書でも同様であり、小学校および中学校で東京書籍の教科書が最も多く採用されていることがわかる。

2 分析の観点

本研究では、これらの8社の第1学年から第3学年までの計24冊の教科書を対象として、(A)教材として収録されている資料の全体的傾向と特徴、(B)資料と内容項目の関連性の2つの観点で分析する。

(A)では、①収録資料の数、②共通資料、③出典の傾向、④伝記資料の4点から、その特質を明らかにする。まず、①収録資料の数については、各出版社で分類されている内容項目に対応した資料および付録等を分析対象とした。そのため、コラム等で内容項目が割り当てられていない資料は分析の対象外としている。②共通資料については、8社中5社以上、つまり過半数を超える出版社で使用されているものを出現頻度の高い共通資料とした。③出典の傾向については、資料の作成者を(1)編集委員会、(2)文部科学省、(3)教育委員会、(4)その他の4つに分類した。その際、(1)～(3)以外の個別の著者や団体によって作成されたものは(4)として集計している⁵。そして、④に関して、本研究では、先人、偉人、著名人の生き方を扱う資料を「伝記資料」とした⁶。

次に、(B)では、⑤出現頻度の高い共通資料の内容項目および対象学年の位置づけの違い、⑥伝記資料における内容項目の2点から分析する。⑤では、共通資料のうち、同一の資料でも出版社ごとに内容項目の位置づけが異なるものを分析した。また、出現頻度の高い資料のうち、同一の資料であっても扱う学年の異なるものを検討する。⑥では、④で取り上げた伝記資料における内容項目の特徴と傾向について明らかにする。

資料の分析においては、基本的に教科書の目次、あるいは巻末等にまとめられている内

容項目との対応表を参照した。資料のなかには、複数の内容項目に対応するものがある。その場合は、1番目に位置づけられているものを、主とする内容項目として集計した。出典については、教科書内で記載されている情報をもとに集計している⁷。伝記資料では、1つの資料に1人の人物ではなく、複数の人物が取り上げられているものがある。人物の総数については、同一の資料内の人物を1点ではなく、登場する人数をすべて集計した。ただし、内容項目については、1つの資料につき、1つの内容項目で集計している。そのため、登場人物の人数と、内容項目の数値が対応していない箇所が部分的にある。

Ⅲ 収録資料の全体的傾向と特徴

ここでは、(1) 収録資料の数、(2) 各社に共通する資料、(3) 資料の作成者および出典、(4) 伝記資料の4つの観点から、教科書に収録されている資料を分析し、その全体的傾向と特徴を明らかにする。分析結果は、以下のとおりである。

1 収録資料の数

まず、教科書に収録されている資料の総数について検討する。表1は、出版社別に学年段階ごとの総頁数および資料数、補助教材としてのノートの有無をあらわしたものである。ここから、中学校の道徳教科書に収録される資料総数は864点である。各学年段階別にみると、第1学年は288点、第2学年は288点、第3学年は288点になる。各学年の資料数は同数であり、学年段階で差はなかった。

収録資料数について、廣済堂あかつき、日本教科書、光村図書出版を除く5社の教科書では、授業時数の35時間に対応して、資料も同数となっている。廣済堂あかつきの教科書は、収録資料数がそれぞれ40点あり、授業時数よりも5点多く資料が設けられている。また、日本教科書では、収録資料数は37点であり、授業時数よりも2点多い。光村図書出版では、収録資料数は36点で、授業時数よりも1点多いことがわかる。

表1 各出版社の教科書の総頁数と資料数、ノートの有無

出版社名	第1学年		第2学年		第3学年		ノートの有無
	頁数	資料数	頁数	資料数	頁数	資料数	
学研教育みらい	180	35	184	35	184	35	無
学校図書	224	35	228	35	224	35	無
教育出版	194	35	178	35	178	35	無
廣済堂あかつき	178	40	162	40	158	40	有
東京書籍	181	35	189	35	189	35	無
日本教科書	192	37	192	37	192	37	無
日本文教出版	191	35	191	35	191	35	有
光村図書出版	224	36	224	36	232	36	無
合計	1564	288	1548	288	1548	288	
平均	195.5	36.0	193.5	36.0	193.5	36.0	

教科書の総頁数について、それぞれの平均値をとると、第1学年は195.5頁、第2学年

は193.5頁、第3学年は193.5頁で、全学年の平均値は194.2頁になる。全学年の平均値が157.6頁である小学校の教科書と比べると、中学校の教科書は36.6頁多くなっている⁸。また、最も学年が近接する小学校第6学年（177.9頁）と比較すると、中学校段階の教科書は16.3頁の増加となっている。小学校段階では、学年が上昇するにつれて、総頁数も増加しているが、中学校段階では、いずれの学年においても同程度の総量である。

2 各社に共通する資料

次に、各出版社の教科書に共通して収録されている資料について検討する。表2は、8社の教科書で出現頻度の高い共通資料をまとめたものである。

表2 各社に共通する資料一覧

	学研	学図	教育	廣済	東書	日本	文教	光村
8社共通								
足袋の季節	D22②	D22③	B6③	D22②	D22③	D22②	D22②	D22③
二通の手紙	C10③	C10②	C10③	C10③	C10③	C10②	C10③	C10③
6社共通								
裏庭のできごと	A1①	A1②	A1①	A1①			A1①	A1①
一冊のノート	C14③	C14③		C14②		C14③	C14③	C14③
言葉の向こうに	B9②	A1③		B9①		B9②	B9③	B9①
5社共通								
銀色のシャープペンシル		D22①		D22①	D22①	A1①		D22①
卒業文集最後の二行	C11③	C11①	C11③	C11③			C11③	
ネット将棋	A1①	A1②		A1①		A2②	A1②	
旗	B6②	B8①		B6①			B8①	B6①
二人の弟子	D22③	D22③		D22③		D22③		D22③
合計数	9	10	4	10	3	7	8	8

学研=学研教育みらい 学図=学校図書 教育=教育出版 廣済=廣済堂あかつき 東書=東京書籍
日本=日本教科書 文教=日本文教出版 光村=光村図書出版 以下、表3,5,7も同じ。

各社に共通する資料は、合計で10種類ある。8社すべてに共通する資料は2種類、7社共通は0種類、6社共通は3種類、5社共通は5種類である。したがって、共通資料の総数は59点で、資料全体の6.8%を占めていることになる。

具体的には、8社に共通する資料は「足袋の季節（第2・3学年）」と「二通の手紙（第2・3学年）」である。そして、6社に共通する資料は「裏庭のできごと（第1・2学年）」「一冊のノート（第2・3学年）」「言葉の向こうに（第1・2・3学年）」で、5社に共通する資料は「銀色のシャープペンシル（第1学年）」「卒業文集最後の二行（第1・3学年）」「ネット将棋（第1・2学年）」「旗（第1・2学年）」「二人の弟子（第3学年）」である。

これらは、①1学年のみで使用される共通資料、②2学年にわたって使用される共通資料、③3学年のすべてで使用される共通資料、の3つに分類できる。②は8種類あり、このタイプが共通資料には多いことがわかる。そして、①は「二人の弟子」と「銀色のシャープペンシル」の2種類で、③は「言葉の向こうに」の1種類のみであった。①と③のタイ

ブは、共通資料では少ないものであるといえる。

学年別にみると、第1学年は19点（32.2%）、第2学年は14点（23.7%）、第3学年は26点（44.1%）である。第1・2学年と比べて、第3学年に共通資料が多く設定されていることがわかる。

出版社別にみると、学研教育みらいは9種類（15.3%）、学校図書は10種類（16.9%）、教育出版は4種類（6.8%）、廣濟堂あかつきは10種類（16.9%）、東京書籍は3種類（5.1%）、日本教科書は7種類（11.9%）、日本文教出版は8種類（13.6%）、光村図書出版は8種類（13.6%）である。学校図書および廣濟堂あかつきは、10種類すべての共通資料を収録する出版社であることがわかる。また、学研教育みらいも9種類と比較的多くの共通資料を収録している。一方で、教育出版が4種類、東京書籍が3種類であるため、これらの2社の教科書は、共通資料を収録する割合が低いものであるといえる。

西口・渡邊（2020）では、小学校段階の教科書において、出現頻度の高い共通資料が全28種類の175点で、資料全体の約10%を占めていることが明らかにされている⁹。そのため、小学校道徳の教科書と比べると、資料全体に占める共通資料の割合が6.8%である中学校の教科書では、その割合は低くなっていることが読みとれる。

3 資料の作成者および出典

ここでは、収録資料の作成者について検討する。表3は、収録資料の出典を（1）編集委員会、（2）文部科学省、（3）教育委員会、（4）その他に分類して示したものである。

表3 出版社別にみる資料の作成者（出典）の分類

	（1）編集委員会				（2）文部科学省				（3）教育委員会				（4）その他				
	①	②	③	計	①	②	③	計	①	②	③	計	①	②	③	計	
学研	11	18	18	47	4	1	0	5	0	0	0	0	20	16	17	53	105
学図	9	4	4	17	1	2	2	5	0	3	0	3	25	26	29	80	105
教育	18	14	16	48	0	0	0	0	0	0	0	0	17	21	19	57	105
廣濟	10	14	10	34	4	2	1	7	2	0	1	3	24	24	28	76	120
東書	5	8	7	20	0	0	0	0	2	0	1	3	28	27	27	82	105
日本	20	18	15	53	2	4	7	13	1	0	1	2	14	15	14	43	111
文教	10	5	8	23	1	3	5	9	6	6	3	15	18	21	19	58	105
光村	17	19	11	47	0	1	0	1	0	0	0	0	19	16	25	60	108
合計	100	100	89	289	12	13	15	40	11	9	6	26	165	166	178	509	864
平均	12.5	12.5	11.1	36.1	1.5	1.6	1.9	5.0	1.4	1.1	0.8	3.3	20.6	20.8	22.3	63.6	108

出典のカテゴリー別の資料数は、（1）編集委員会は289点（33.4%）、（2）文部科学省は40点（4.6%）、（3）教育委員会は26点（3.0%）、（4）その他は509点（58.9%）である。最も出典の多いカテゴリーは、資料数が509点の（4）その他である。第1学年が165点、第2学年が166点、第3学年が178点になる。学年が上昇するにつれて資料数も増加していることがわかる。

次に多いカテゴリーは、（1）編集委員会である。それぞれ第1学年が100点、第2学年

が100点、第3学年が89点になる。第3学年になると、他学年と比べて資料数が若干少なくなっている。

最も使用頻度の少ない出典のカテゴリーは、(3)教育委員会である。第1学年が11点、第2学年が9点、第3学年が6点になる。(3)が出典となる資料を多く収録している教科書は、日本文教出版のものである。第1学年から第3学年にわたって、すべての学年で(3)の資料が含まれている。一方で、学研教育みらい、教育出版、光村図書出版の3社では、(3)の資料は取り扱われていないこともわかる。

(3)の教育委員会作成の資料と同様に、(2)の文部科学省が作成した資料も全体に占める割合が低いものとなっている。日本教科書は、(2)の資料を教科書に配置している割合が高い出版社であるといえる。しかし、東京書籍に関しては、(2)の資料は1点も収録されていない。また、光村図書出版も、第2学年で1点扱うだけにとどまっている。

4 伝記資料

ここでは、伝記資料の傾向と特徴について検討する。表4は、出版社ごとに収録される伝記資料の総数と配分を示したものである。

表4 出版社および学年別にみる伝記資料の配分(%)

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
学研教育みらい	12 (5.7%)	11 (5.2%)	13 (6.1%)	36 (17.0%)
学校図書	5 (2.4%)	10 (4.7%)	13 (6.1%)	28 (13.2%)
教育出版	9 (4.2%)	13 (6.1%)	8 (3.8%)	30 (14.2%)
廣済堂あかつき	4 (1.9%)	7 (3.3%)	5 (2.4%)	16 (7.5%)
東京書籍	7 (3.3%)	8 (3.8%)	7 (3.3%)	22 (10.4%)
日本教科書	8 (3.8%)	8 (3.8%)	9 (4.2%)	25 (11.8%)
日本文教出版	9 (4.2%)	9 (4.2%)	10 (4.7%)	28 (13.2%)
光村図書出版	10 (4.7%)	7 (3.3%)	10 (4.7%)	27 (12.7%)
合計	64 (30.2%)	73 (34.4%)	75 (35.4%)	212

伝記資料の総数は212点あり、資料全体の24.5%を占めている。学年別にみると、第1学年は64点(30.2%)、第2学年は73点(34.4%)、第3学年は75点(35.4%)である。第1学年は、他学年と比べて若干資料数が少なくなっている。一方で、第2学年および第3学年は、ほぼ同数となっている。

出版社別にみると、学研教育みらいは36点(17.0%)、学校図書は28点(13.2%)、教育出版は30点(14.2%)、廣済堂あかつきは16点(7.5%)、東京書籍は22点(10.4%)、日本教科書は25点(11.8%)、日本文教出版は28点(13.2%)、光村図書出版は27点(12.7%)である。伝記資料総数が最も多いのが、学研教育みらいであることがわかる。一方で、伝記資料数が最も少ない教科書は、廣済堂あかつきのものである。また、日本教科書、東京書籍、日本文教出版の3社では、伝記資料の配分において、学年間でのばらつきが少なく、比較的バランスのとれた教科書の構成であるといえる。

次に、表5は、伝記資料で取り上げられる人物を指導内容項目および対象学年別に示し

たものである。なお、網掛け部分は、2社以上で共通して収録される人物のうち、出版社間で内容項目の位置づけが異なるものをあらわしている。

表5 伝記資料で取り上げられる人物（先人、偉人、著名人）一覧

	学研	学図	教育	廣済	東書	日本	文教	光村
6社共通								
杉原千畝	C18③	C18②	C18②		C18②	C10③	C18③	
3社共通								
植松努	A5③		A4①		A5①			
嘉納治五郎	C18①	C18③				B9①		
鈴木恵美子	C15①	C15③				C15③		
新津春子			C13②			C13①	C13①	
松井秀喜 松井秀喜／伊集院静 松井秀喜／長嶋茂雄	A1②			A3③			B8②	
山中伸弥	A5②					A3③	A5③	
マザー・テレサ			C18③	C18②			D19①	
2社共通								
石川正一	D19①				D19③			
上杉鷹山	A1③					C16③		
王貞治		C17②		C17②				
木村秋則	D20②					A4③		
国枝慎吾						A3①	D22②	
黒田博樹					D22③			A4②
黒柳徹子		C18①						B6①
さかなクン							C11①	C11①
佐藤真海	A4③				C12②			
鈴木一朗（イチロー）	A3①		A3①					
為末大		A3②					A4②	
長嶋茂雄 長嶋茂雄／松井秀喜			A4②			B8②		
成田真由美				A4①				A4②
萩野公介／瀬戸大也	B8③		B8①					
濱口梧陵（儀兵衛）		A2③					C16③	
福本清三		A3③	A3②					
山極勝三郎		C13③				A4②		
エドワード・シルヴェスター・モース		C10②					C10③	
チャック・ボヤージン	C13①						C13②	
1社のみ								
相沢忠洋					A5②			
明石康		C18③						
雨宮清	C18②							
新井淑則	D22①							
安藤百福				A5①				

飯田常雄						D20②	
池上彰					B 9 ③		
石井筆子			C12③				
伊調馨	A 3 ③						
伊能忠敬	A 5 ③						
井上康生						A 4 ②	
今井乃子	D19①						
井村和清			C14②				
岩崎卓爾		C16②					
宇崎竜童／高倉健	C15②						
白井二美男	C13③						
大石邦子						C19③	
大石又七					C11③		
大野将平							B 7 ③
緒方洪庵	D19②						
緒方貞子			C18①				
小川三夫						C17③	
小田兼利			A 5 ①				
尾高惇忠	A 4 ②						
大日方邦子			B 9 ①				
葛西紀明							A 4 ③
桂米朝			C17①				
加藤秋雪			D19②				
加藤三郎			C17③				
川口淳一郎							A 4 ①
川瀬功／村上久美子			C10②				
貫戸朋子			D19②				
岸本耕作	A 4 ①						
稀勢の里	B 6 ②						
北垣国道／田辺朔郎			C16③				
北川悠仁							A 4 ①
北村麻子	C16③						
北村春夫					D19②		
小泉八雲						C17③	
肥沼信次			C18②				
後藤新平			C12②				
五嶋みどり			C12③				
小林好美子					C18①		
近藤光一							D20②
齊藤慶輔					B 9 ②		
佐倉惣五郎						C11③	
佐々木清和							D19①
佐々木瑠璃	D22③						
笹原留以子		D19③					
佐野藤右衛門					D20①		

猿渡瞳							D19②	
三田果菜／大岡辰徳								C13①
繁延あづさ								D19②
鈴木憲美							A 5 ①	
瀬立モニカ			A 4 ①					
千住真理子							D22①	
高井ゆかり／新見正則							D19③	
高梨沙羅	A 2 ②							
高橋陽一							A 4 ①	
高村光太郎／長沼智恵子							A 5 ②	
竹下佳江			A 4 ②					
館野泉						A 4 ②		
田中一村		D21②						
田中正造						C11②		
田邊優貴子	D21③							
塚原直貴／末續慎吾／高平慎士 ／朝原宣治		A 4 ①						
塚本こなみ							D20①	
辻村みちよ								A 5 ③
東儀秀樹		C17③						
十亀恵美子／柴田トヨ							B 6 ②	
中田厚仁		C12②						
中村裕							C12③	
中谷宇吉郎		A 5 ①						
中山久蔵		C16③						
西岡京治							C18②	
錦織兵三郎			C16②					
野口健							C12①	
野村萬斎			C17②					
橋本和浩／田中重勝						D19①		
長谷部誠	B 9 ②							
八田與市							C18①	
坂茂							C12②	
菱田春草								A 4 ③
広瀬茂男	A 5 ①							
廣道純		D22②						
福島智							D22②	
藤井成一		C13②						
藤井輝明			B 9 ③					
藤本治一郎								C13③
前田昭博								A 5 ③
又野末春		D20①						
松岡史朗			D20③					
三浦知良					A 4 ②			
三浦雄一郎						A 4 ③		

三浦彌市				C17①				
御木本幸吉		A 4 ③						
三澤拓			A 4 ③					
水谷修		A 1 ③						
道下俊一					C13②			
三橋節子					A 5 ③			
宮澤崇史				C14③				
宮原美保					C13①			
向田邦子							A 2 ③	
陸奥宗光						C16①		
村山聖				A 4 ②				
森繁久彌	B 9 ①							
柳橋佐江子								C14②
柳家金語楼					A 1 ②			
山内宏志	A 3 ②							
山縣亮太					A 4 ①			
山口富藏					C17①			
山崎直子		D21③						
山本敏晴	C18③							
山本美香							A 5 ②	
夢童由里子			C16①					
吉田沙保里							A 4 ③	
吉田松陰						A 4 ①		
吉田真美								C18③
吉田ルイ子								D22①
吉野繁								A 5 ②
若柳梅京		C17①						
渡部成俊	D19③							
和田真由美		D19③						
アニー・サリバン								A 4 ①
アルトゥル・ショーペンハウアー／フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ				A 5 ③				
アントニ・ガウディ／外尾悦郎								D21③
アントニーナ・リーロ						C11②		
イマヌエル・カント／ジャン＝ジャック・ルソー				C14③				
エルマおばあさん								D19①
オードリー・ヘップバーン							D22③	
ガブリエラ・アンデルセン				D21②				
ガリレオ・ガリレイ		A 5 ②						
カレン・クインラン					D19③			
孔子								A 3 ③
コンスタンティン・スコロプイシュヌイ						D19②		
ジム・ジョイス				A 1 ②				
ジャッキー・ロビンソン						C11①		
ジャン・フランソワ・ミレー								B 8 ①

ネルソン・マンデラ				C11③				
ヒーブル・オンジェイ／旭西ギニャール／大島希巳江／ドナルド・キーン	C17①							
フレッド・和田勇						C17②		
ページ・エドワーズ								B9①
マララ・ユスフザイ							C18③	
マルクス・レーン	C11①							
孟子／荀子								D22②
レーナ・マリア						D22①		
鲁迅								C11③
ワンガリ・マータイ				D20①				

伝記資料として収録される人物の総数は195名である。そのうち、伝記資料で最も頻繁に収録される人物は、杉原千畝であることがわかる。同人物は、廣済堂あかつきと光村図書出版を除く、6つの出版社の教科書で取り扱われている。西口・渡邊（2020）によると、杉原千畝は小学校の道徳教科書でも頻繁に扱われる人物であるという¹⁰。

次に3社で共通して収録される人物には、植松努、嘉納治五郎、鈴木恵美子、新津春子、松井秀樹、山中伸弥、マザー・テレサの7名があげられる。そして、2社で共通して収録されている人物は、合計で21名である。

残りの166名は、出版社間で共通して取り上げられていない人物である。小学校の道徳教科書を分析した西口・渡邊（2020）では、伝記資料として収録されている人物が108名であることが明らかにされている¹¹。小学校段階では全6学年で108名、つまり1学年の伝記資料の平均は18名である。中学校段階では全3学年で195名、つまり1学年平均は約65名となる。また、伝記資料の総数に関して、小学校は159点で、中学校は212点である。1学年平均をとると、小学校は25.7点で、中学校は70.7点になる。

小学校では、113名のうち、日本人は95名（84.1%）で、日本人以外が18名（15.9%）である¹²。中学校では、195名のうち、日本人が162名（83.1%）で、日本人以外が33名（16.9%）である。これらの点から、小学校の教科書と比べて、中学校道徳の教科書では、伝記資料の占める割合が大きくなっていることがわかる。ただし、伝記資料で取り上げる人物のうち、日本人と日本人以外の割合は、小学校と中学校で大きな違いはみられない。

また、小学校と比較すると、伝記資料で取り上げられる人物には、共通する人物が複数存在していることがわかる。共通する人物の総数は17名で、そのうち日本人が13名、日本人以外が4名である。日本人には、杉原千畝（小学校4点／中学校6点：以下、順は同じ）、山中伸弥（3点／3点）、佐藤真美（2点／2点）、鈴木一郎（1点／2点）、長嶋茂雄（1点／2点）、伊能忠敬（2点／1点）、緒方洪庵（1点／1点）、中谷宇吉郎（2点／1点）、西岡京治（4点／1点）、三浦雄一郎（1点／1点）、村山聖（1点／1点）、吉田沙保里（1点／1点）、吉田松陰（1点／1点）があげられる。また、日本人以外には、マザー・テレサ（4点／3点）、アニー・サリバン（2点／1点）、マララ・ユスフザイ（1点／1点）、ワンガリ・マータイ（1点／1点）があげられる。

なかでも、杉原千畝は、小学校および中学校の両教科書で取り上げる出版社もある。小学校の教科書では、教育出版、光文書院、日本文教出版、光村図書出版の4社が取り上げている。中学校の教科書では、学研教育みらい、学校図書、教育出版、東京書籍、日本教科書、日本文教出版の6社が取り上げている。ここから、教育出版と日本文教出版の2社は、小・中学校の両教科書で「杉原千畝」に関する資料を収録していることがわかる。

IV 収録資料の内容項目の傾向と特徴

本節では、出現頻度の高い共通資料と指導内容項目の関連について整理する。表6は、共通資料を内容項目の視点別に示したものである。網掛け部分は、各学年および視点ごとに、最も出現頻度の高い項目をあらわしている。

表6 内容項目の視点別にみる共通資料の全体的傾向

項目	①	②	③	小計	合計
A (1) 自主、自律、自由責任	8	3	1	12	13
(2) 節度、節制		1		1	
(3) 向上心、個性の伸長					
(4) 希望と勇気、克己と強い意志					
(5) 真理の探究、創造					
B (6) 思いやり、感謝	2	1	1	4	11
(7) 礼儀					
(8) 友情、信頼	2			2	
(9) 相互理解、寛容	2	2	1	5	
C (10) 遵法精神、公德心		2	6	8	19
(11) 公正、公平、社会正義	1		4	5	
(12) 社会参画、公共の精神					
(13) 勤労					
(14) 家族愛、家庭生活の充実		1	5	6	
(15) よりよい学校生活、集団生活の充実					
(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度					
(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度					
(18) 国際理解、国際貢献					
D (19) 生命の尊さ					16
(20) 自然愛護					
(21) 感動、畏敬の念					
(22) よりよく生きる喜び	4	4	8	16	
合計	19	14	26	59	

全体的な傾向として、視点Aは13点（22.0%）、視点Bは11点（18.6%）、視点Cは19点（32.2%）、視点Dは16点（27.1%）であることがわかる。視点Aは項目の平均値が2.60、視点Bは項目の平均値が2.75、視点Cは項目の平均値が2.11、視点Dは項目の平均値が4.00となる。したがって、共通資料では、視点Dが最も割合が高いものとなる。

視点別に頻度の高い項目をみると、視点Aでは、「(1) 自主、自律、自由責任」が12点

(92.3%)である。視点Bでは、「(9) 相互理解、寛容」が5点(45.5%)である。視点Cでは、「(10) 遵法精神、公德心」が8点(42.1%)である。視点Dでは、「(22) よりよく生きる喜び」が16点(100%)である。視点Dでは、「(22) よりよく生きる喜び」だけが項目として設定されているため、共通資料では「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出すこと」¹³を学ぶことが重点項目として設定されているといえる。

学年別にみると、第1学年では、視点Aの「(1) 自主、自律、自由責任」が8点(42.1%)である。第2学年では、視点Dの「(22) よりよく生きる喜び」が4点(28.6%)である。第3学年では、視点Dの「(22) よりよく生きる喜び」が8点(30.8%)である。

表7は、共通資料と内容項目および対象学年段階の位置づけの差異を示したものである。網掛け部分は、出版社間で内容項目の位置づけが異なるものをあらわしている。

表7 共通資料における内容項目および学年段階の位置づけの差異

	学研	学図	教育	廣済	東書	日本	文教	光村
8社共通								
足袋の季節	D22②	D22③	B6③	D22②	D22③	D22②	D22②	D22③
二通の手紙	C10③	C10②	C10③	C10③	C10③	C10②	C10③	C10③
6社共通								
裏庭のできごと	A1①	A1②	A1①	A1①			A1①	A1①
一冊のノート	C14③	C14③		C14②		C14③	C14③	C14③
言葉の向こうに	B9②	A1③		B9①		B9②	B9③	B9①
5社共通								
銀色のシャープペンシル		D22①		D22①	D22①	A1①		D22①
卒業文集最後の二行	C11③	C11①	C11③	C11③			C11③	
ネット将棋	A1①	A1②		A1①		A2②	A1②	
旗	B6②	B8①		B6①			B8①	B6①
二人の弟子	D22③	D22③		D22③		D22③		D22③

内容項目の位置づけが異なるものは、10種類中5種類である。位置づけの違いは、大きく2つに分類できる。第一に、視点そのものが異なるものである。これは、「足袋の季節」「言葉の向こうに」「銀色のシャープペンシル」の3種類が該当する。「足袋の季節」は、視点Dの「(22) よりよく生きる喜び」が7社、視点Bの「(6) 思いやり、感謝」が1社である。また、「言葉の向こうに」は、視点Bの「(9) 相互理解、寛容」が5社、視点Aの「(1) 自主、自律、自由責任」が1社である。そして、「銀色のシャープペンシル」は、視点Dの「(22) よりよく生きる喜び」が4社、視点Aの「(1) 自主、自律、自由責任」が1社である。

第二に、視点は同一であるが、内容項目が異なるものである。これは、「ネット将棋」「旗」の2種類が該当する。「ネット将棋」では、視点Aで統一されているが、「(1) 自主、自律、

自由責任」が4社、「(2) 節度、節制」が1社である。また、「旗」では、視点Bで統一されているが、「(6) 思いやり、感謝」が3社、「(8) 友情、信頼」が2社である。それぞれ、大部分の出版社では、同様の視点が設定されているが、部分的に異なる視点を設定している出版社が存在している。また、同じ視点のなかでも、異なる内容項目を設定する出版社も一部存在していることもわかる。

次に、学年段階の位置づけが異なる資料には、8種類があげられる。これらの学年段階の違いは、2つに分類される。第一に、2学年にわたって使用されるものである。これは、「足袋の季節」「二通の手紙」「裏庭のできごと」「一冊のノート」「卒業文集最後の二行」「ネット将棋」「旗」の7種類が該当する。第二に、3学年すべてで使用されるものである。これは、「言葉の向こうに」が該当する。

出版社別にみると、学研教育みらい、廣済堂あかつき、東京書籍、光村図書出版の4社は、共通の視点および内容項目を設定している出版社である。その他の出版社は、部分的に視点あるいは内容項目の位置づけが他社と異なっている。たとえば、学校図書と日本教科書は、2種類の共通資料で他社と異なる設定となっている。

V 伝記資料における内容項目

ここでは、伝記資料と内容項目の関連について検討する。表8は、伝記資料を内容項目の視点別に整理して示したものである。網掛け部分は、各学年および視点ごとに、最も出現頻度の高い項目をあらわしている。

全体的にみると、視点Aは69点(32.5%)、視点Bは16点(7.5%)、視点Cは83点(39.2%)、視点Dは44点(20.8%)である。視点Aは項目の平均値が13.8、視点Bは項目の平均値が4.0、視点Cは項目の平均値が9.2、視点Dは項目の平均値が11.0となる。したがって、伝記資料では、視点Aが最も割合が高いものとなる。

視点別に出現頻度の高い項目をみると、視点Aでは、「(4) 希望と勇気、克己と強い意志」が30点(43.5%)である。視点Bでは、「(9) 相互理解、寛容」が8点(50.0%)である。視点Cでは、「(18) 国際理解、国際貢献」が20点(24.1%)である。視点Dでは、「(19) 生命の尊さ」が20点(45.5%)である。総合的にみても、視点Aの「(4) 希望と勇気、克己と強い意志」は30点で、伝記資料全体の14.2%を占める項目となっている。伝記資料では、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」¹⁴が重点項目であることが読みとれる。

学年別にみても同様に、いずれの学年においても、視点Aの「(4) 希望と勇気、克己と強い意志」が、それぞれ11点(17.2%)、11点(15.1%)、8点(10.7%)で最も出現頻度が高くなっている。伝記資料においては、「自己の在り方を自分自身との関りで捉え、望ましい自己の形成を図ること」¹⁵を目指す視点Aが、重点的な指導の視点として設定される傾向にあるといえる。

視点Aのなかでも「(4) 希望と勇気、克己と強い意志」が重点的指導項目とされる傾

向は、小学校道徳の教科書と同様である。西口・渡邊（2020）では、対応する項目は、伝記資料総数159点中45点で最も出現頻度が高く、全体の28.3%を占めているという¹⁶。中学校段階では、全体に占める割合は14.2%であり、小学校段階と比べると低い割合ではあるが、いずれにしても最も出現頻度が高い項目である。

表8 内容項目の視点別にみる伝記資料の全体的傾向

項目	①	②	③	小計	合計
A (1) 自主、自律、自由責任		3	3	6	69
(2) 節度、節制		1	2	3	
(3) 向上心、個性の伸長	3	3	5	11	
(4) 希望と勇気、克己と強い意志	11	11	8	30	
(5) 真理の探究、創造	6	6	7	19	
B (6) 思いやり、感謝	1	2		3	16
(7) 礼儀			1	1	
(8) 友情、信頼	2	1	1	4	
(9) 相互理解、寛容	4	2	2	8	
C (10) 遵法精神、公德心		2	2	4	83
(11) 公正、公平、社会正義	4	2	4	10	
(12) 社会参画、公共の精神	1	4	3	8	
(13) 勤労	5	4	3	12	
(14) 家族愛、家庭生活の充実		2	1	3	
(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	1	1	2	4	
(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	2	2	5	9	
(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	5	4	4	13	
(18) 国際理解、国際貢献	5	7	8	20	
D (19) 生命の尊さ	6	7	7	20	44
(20) 自然愛護	4	3	1	8	
(21) 感動、畏敬の念		2	3	5	
(22) よりよく生きる喜び	4	4	3	11	
合計	64	73	75	212	

中学校段階では、指導内容項目の配分が、小学校段階と比べて、全体的にバランスよく配列されるようになってきている。小学校の教科書では、各学年で割り当てられていない項目は、第1学年で16項目、第2学年で15項目、第3学年で11項目、第4学年で10項目、第5学年で8項目、第6学年で8項目である。一方で、中学校の教科書では、各学年で割り当てられていない項目は、第1学年で6項目、第2学年で1項目、第3学年で1項目である。中学校の教科書では、伝記資料の全体に占める割合が24.5%であり、小学校の教科書と比べて高くなっていることも影響しており、内容項目の配列も均衡がとれるようになったといえる。

VI おわりに

本稿では、8社24冊の中学校道徳教科書の収録資料の全体的な特徴と傾向について、小学校教科書との比較を通して明らかにした。しかしその検討が主として量的な観点から表

層的な特徴を抽出したものであるため、教科書の内容的分析を通して「考え、議論する道徳」という理念に即した道徳授業実践に適したものであるのかという点については今後の課題としたい。

註

- ¹ 中学校道徳教科書を対象とした研究として、歌川光一（2019）「中学校道徳教科書の読み物にみる友情のジェンダー表象」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第46号・藤川大祐（2019）「中学校道徳教科書における少数者の扱いの検討」『千葉大学教育学部授業実践開発研究』第12巻・柴崎直人（2020）「中学校道徳教科書における「礼儀」の扱われ方」『岐阜大学教育学部研究報告人文科学』vol.68 no.2・鈴木慎一郎（2020）「中学校道徳教科書における「郷土の伝統と文化の尊重」—日本の民謡に着目して—」鳥取大学地域学部『地域学論集』第16巻第2号等。
- ² 元笑予ほか（2019）「道徳教科書の傾向をデータから探る：基礎的データを踏まえた実証的な授業と研究のために」『東京学芸大学教職大学院年報』第8号
- ³ たとえば、2008年に改訂された『学習指導要領』では、「先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと」という文言が新たに加えられるなど、先人や偉人、著名人の伝記の見直し・再評価の動きがある（渡邊毅（2020）『道徳教育における人物伝教材の研究 人は偉人を模倣する』ナカニシヤ出版，pp.2-5）また、道徳教育の強化を図る一連の動向のうち、『心のノート』が全面改訂されて、『私たちの道徳』が刊行された。塩原（2018）は、その改訂の特徴として、「偉人」の伝記や説話などを紹介する「読み物教材」が多く加えられた点をあげている（塩原佳典（2018）「道徳教育の書き込み欄に関する基礎的考察—学校・家庭・地域の「連携」に着目して—」『研究論叢』（90）p.168.）。このような伝記資料の開発や活用の動向は、2018年に改訂された学習指導要領にも引き継がれているといえる。
- ⁴ 「中学校『特別の教科 道徳』教科書採択、東京書籍がシェアトップ」日本教育新聞，2019年3月18日（<https://www.kyoiku-press.com/post-200411/>）（2020年2月20日閲覧）
- ⁵ 編集委員会によって改作された資料は、（1）編集委員会に分類して集計した。
- ⁶ 大関達也（2016）「生き方を考える道徳教育の意義—『偉人伝』をどう解釈するか—」渡邊満・押谷由夫・渡邊隆信・小川哲哉（編）『『特別の教科 道徳』が担うグローバル時代の道徳教育』北大路書房，p.131. および西口啓太・渡邊隆信（2020）「小学校における『特別の教科 道徳』の教科書分析—『内容項目』との関連を中心に—」神戸大学教育科学論コース『教育科学論集』23，p.2. を参考に、本研究における伝記資料の位置づけを設定した。
- ⁷ ただし、東京書籍は教科書には出典について明記していなかったため、同社のみ指導書を参照した。
- ⁸ 平田（2019）は、小学校の道徳教科書を分析し、各社の教科書の頁数について示している（平田繁（2019）「小学校道徳教科書における指導内容取扱回数」『中村学園大学発達支援センター研究紀要』10，p.94.）。それらの平均値を算出すると、小学校の第1学年は130.6頁、第2学年は142.6頁、第3学年は156.9頁、第4学年は164.9頁、第5学年は172.9頁、第6学年は177.9頁である。つまり、全

学年の平均値は157.6頁になる。

⁹ 西口啓太・渡邊隆信, 前掲, p.2.

¹⁰ 同上, p.7.

¹¹ 同上, p.4.

¹² 同上。

¹³ 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編』教育出版,
p.68.

¹⁴ 同上, p.32.

¹⁵ 同上, p.20.

¹⁶ 西口啓太・渡邊隆信, 前掲, p.8.

